



## 建学の精神

キリスト教に基づき、真理の探究をなしつつ、人間形成の教育をする。

〈心の誓い〉

神を信頼すること。

神の愛を知り、自分を愛するように隣人を愛し、互いに助け合うこと。

失望することがあっても絶望しないこと。

常に希望を持つこと。



捜真学院 校章・マーク  
西に位置する白い富士山が東に位置する青い海に映し出されたところに、頭文字を重ねたもの。白い富士が表わす誠実な心で、青い海が表わす真理を追い求めることを意味しています。

## 学校法人 捜真学院

〒221-8720 神奈川県横浜市神奈川区中丸8

TEL : 045-491-3686 FAX : 045-491-6715



## 創立

捜真学院は、バプテスト派宣教師ネーサン・ブラウンの夫人、シャーロット・ブラウンによって創設されました。

1873年(明治6)ブラウン夫妻は横浜に上陸。ゴープル夫妻とともに横浜浸礼教会(のちの日本バプテスト横浜教会)を設立し、夫人は近所の少女たちを教え始めました。しかし、病気になったためにクララ・サンズにそのクラスを託します。サンズは、のちに駿台英和女学校校長となったアンナ・キダーとともに1875年(明治8)来日した、アメリカ婦人バプテスト外国伝道協会の女性宣教師です。

ブラウン夫人は夫の宣教を助けていましたが1886年(明治19)夫が召天し、続いてサンズが帰国するために、7人の少女を預かることになりました。山手67番の使われなくなった聖書印刷所を校舎にし、翌1887年(明治20)10月1日、裏門に〈英和女学校〉の看板を掲げました。この10月1日がのちに創立の日と定められています。本格的に日本の女子教育を始めようと決心したブラウン夫人は、助けてくれる人材を共立女学校(のちの横浜共立学園)に求め、エイミー・コーンズ(のちの山田千代子)がやって来ました。1891年(明治24)山手34番に新しい校舎が完成します。

ブラウン夫人の要請に応じて、宣教師クララ・カンヴァースが派遣されたのは、その前年でした。アシュモア博士と再婚して中国伝道に向かったブラウン夫人の跡を継ぎ、カンヴァースは第2代校長に就任します。

1892年(明治25)〈捜真女学校〉と改称。捜真とは「聖書の真理を捜し求める」という意味です。1947年(昭和22)に中学部、翌年には高等学部が認可され、1957年(昭和32)に小学校を併設。小学校が男女共学のことから、1988年(昭和63)〈捜真学院〉としました。1910年(明治43)手狭になった山手から神奈川区中丸の現在の地に移転しています。

カンヴァースは、宣教師は伝道すべきであり、ミッションスクールは伝道活動を行なうべきである、という信念を持ち、1891年(明治24)現在の南太田に講義所(伝道所)をつくりました。これが捜真女学校の日曜学校の始まりで、本牧や北方、神奈川移転後には小机、鶴見や川崎にまで伸びていきました。

## 創立の背景と歴史

1886年(明治19)捜真学院は、自宅裏の使われなくなっていたブラウン博士の聖書印刷所で始まりました。学校といっても、食堂、寝室、勉強部屋を含めて5室しかなく、私塾のようなものでした。ブラウン夫人と通ってくる男性教師が、毎日2~3時間の授業を行ないました。ブラウン夫人には、当時10歳の息子がいて、その養育の合間を縫って英語を教え、日曜日にはバイブル・クラスを指導し、亡夫の残した仕事の整理をするという忙しさでした。

生徒数が増えてきたため、「新しい建物と有能な教師が必要だ」と考えた夫人は、神の導きと恵みを祈り、アメリカの友人に手紙を書きました。願いはすぐにはかなえられませんでした。彼女の信念は揺らぐことなく、1889年(明治22)3月ついに機会を得てアメリカに向かい、ミッション婦人部に校舎建設の資金の送金と教師の派遣を要請し、約束を取りつけたのです。

ブラウン夫人の教師要請を受けて着任したクララ・カンヴァースは、アメリカ・バーモント州南部で農業を営む一家に生まれ、16歳で小学校教師になりますが、勉学意欲が高く、さらに高等教育を受けました。26歳でバーモント州の視学官に任命されます。視学官というのは、専門的、技術的な指導・助言を行なう監督官のことです。1888年(明治21)、父の死に立ち会ったとき、天の父なる神を身近に感じたカンヴァースは「神の道を伝えに外国に行け」という声を聞き、周囲の反対を押して日本行きを決意しました。

1910年(明治43)神奈川区中丸に移転したときは、生徒の通学には不便で寂しい場所だったために、83名いた生徒が46名に減少。しかし、ニューイングランドを思わせる白い塔のある校舎などが次第に増え、教育内容が充実するとともに、生徒数も増加しました。1918年(大正7)東京女子大学設立に伴ない、高等普通科の卒業生が東京女子大学に入学できることになったので、英文専門科を廃止。しかし、強い要望があって1年後に復活しています。

中丸の現在地は、〈神奈川一本松〉と呼ばれる丘で、ジェームズ・バラ宣教師が毎朝訪れて祈った〈平尾内膳物見の松〉の近くです。神が半世紀も前の自分の祈りを聞いてくださり、この地にミッションスクールが建てられたと言って、バラは娘とともに捜真女学校を訪問し、感謝の祈りを捧げたといひます。

1925年(大正14)カンヴァースは校長を引退し、名誉校長になって校外に移り、山田や教え子と暮らす終生の〈我が家〉で卒業生や教職員を迎えました。

1935年(昭和10)1月23日カンヴァースの病状悪化がNHKのニュースで伝えられると、同窓生の祈りが各地で捧げられました。翌日神のもとに召され、その亡骸は「捜真の見える所に」という生前の意思により、学校の見える丘の上の墓地に埋葬されました。墓石には「エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ」と刻まれています。

満州事変を契機にミッション本部の方針が変更されたり、横浜大空襲で校舎が全焼して関東学院に合併する計画が浮上するなど、幾度も廃校の危機を体験しますが、カンヴァースの教えを受けた卒業生たちの「捜真の名を失いたくない」という強い思いから、今日まで歩みを続けています。



創立者 Charlotte A. Brown (1839~1923年)  
第2代校長 Clara Adra Converse (1857~1935年)  
ブラウン夫人の跡を継ぎ、  
35年間にわたって校長の責務を務めました。

